

東アジア三大学シンポジウムを開催



左から、コーディネーターの堀内教授、パネラーの李講師、黄教授、何講師、徐副教授、道盛教授、外山助教授

7月21日、「経済危機と21世紀の東アジア」を共通テーマに、「東アジア三大学シンポジウム」が下関市の海峡メッセ（山口県国際総合センター）で、盛大に開催された。下関市立大学、青島大学（中国）、東義大学（韓国／釜山市）の研究者が、1997年から始まったアジア経済危機の原因や現状分析、今後の展望等について、報告発表とパネルディスカッションをし、約120名の市民や学生が熱心に聞き入った（同時通訳あり）。下関市立大学は、青島大学と1989年に友好交流協定を、東義大学と1990年に姉妹校協定を締結しているが、三大学間のシンポジウムは初めての試みである。このシンポジウムは、昨年秋に東義大学の成炳卓教授が本学を訪問された際に提案があり、今春、青島大学の同意を得て実現したものである。

まず元市立大学学長の木下悦二・福岡国際大学学長が「東アジア経済とグローバル資本主義」の論題で特別講演をされた。東アジア通貨危機時に、米国巨大銀行のデリバティブへの投資が拡大したことを資料で指摘し、新興開発国（債務国）市場の情報開示よりも、むしろ、群集的に行動するヘッジファンドの情報開示の必要性を力説された。

各大学からの基調報告では、下関市立大学の川本忠雄教授は「21世紀東アジア貿易の方向—競争・対立から連携へ—」という論題で、青島大学の伍海華教授は「転型期中国の金融リスクとその対策について」という論題で、東義

大学の河相祚教授・成炳卓教授は「東アジア 為替危機と経済協力の方向」の論題で、それぞれ報告を行った。

続いて、下関市立大学の堀内隆治教授をコーディネーターにして、三大学の6人の教授らによるシンポジウムが行われた。パネラーは、市立大学は道盛誠一教授、外山忠助教授、青島大学は徐修徳副教授、何紅章講師、東義大学は黄麟秀教授、李在得専任講師であった。

今回の国際シンポジウムは、本学にとって初めての試みであり、お互いの友好促進・国際交流には大いに寄与した。しかし討議時間の不足のせいもあり、議論が今一步、深化しなかった点は心残りである。今後の課題であろう。



木下悦二福岡国際大学学長（元本学学長）の特別講演

英国雑感

小 野 博 則

去年の夏は、一年間の在外研究のため、私はイギリスのヨークに滞在していた。沈んだ色合を帯びたヨークの街は、美しく爽涼ではあったが、アジアモンスーンに馴染んだ身には、蝉の啼かない夏は不思議な感じのするものであった。

慢性的不況を抜けたイギリスは、その夏、空前のブーミング状態にあったが、タイムズ紙は、日本の不況の深刻化と政権の交替を報道していた。日英の景況は対照的であったが、イギリスでは日本製品はまだ健在で、市場がトップブランドの評価を与える日本製品も少なくないのも事実ではあった。イギリス国内で生産される外国製品が、雇用や所得の創出に寄与するという傾向は、金融部門と同様に実体経済においても、「経済のウィンブルドン化」現象が進行していることを示していた。

客員研究員となったヨーク大学経済学部のあるヨーク市は、ヨークシャーに位置し、産業革命によって勃興したマンチェスター、リーズ、ブラッドフォードなどに近く、そうした地方都市は、資本主義の祖型となった英国産業資本主義の芳醇な残り香をどこかに留めていた。日本型資本主義やアメリカ型資本主義が比較的新しいのに比べて、英国のそれは、その場に臨むと、都市や農村を呑み込んだ英国文化の歴史の流れそのものといった圧倒的質感で迫ってくる感じがかった。

地震のないイギリスでは、建物は石積みが多く、自然石で造られた中世やヴィクトリア朝の建造物がそのままに随所に残っている。現在でも民家は煉瓦造りが多く、その耐用年数は極めて長い。石造りの文化は、フリーメイソンの技を現代に伝えると同時に、文物を収容する入れ物としても、文化の蓄積に貢献したように思われる。

古いものを大事にするその国民性は、総じて私にはゆかしく魅力的なものに映じたが、食事に関するのと同様に、イギリス人は飲酒に関してもエビキュールではないらしい。ヨーク大学の近くに「チャールズ14世」という名のパブがあり、私も友人と一緒に出入りしたものであった。その絢爛たる店名の割には、内部は至って簡素で、BGMもない。奥のカウンターの前で現金を払うと、経営者がジョッキにビールを注いでくれる。銘柄は、ラガー、ピター、そしてアイリッシュ・ギネスなどがあり、数百年来の伝統の味である。パブというのは、イギリスのどこに行っても在り、おおむねこのような感じである。客は仲間内でテーブルを囲み、つまみのようなものは余り食べないで、議論やユーモア溢れる会話に興ずるといふ風情であった。酒やつまみは、コミュニケーションを盛り上げるための小道具に過ぎない。

産業革命期に爛熟した英国のコーヒー文化は、やがて茶の文化に取って代られていくのであるが、議論好きな庶民の社交の場として談論の花を咲かせたコーヒーショップの

自由な空気は、今も脈々とパブの中に生き続けているようであった。

古きを尊びながら、質実な生活を好んだ庶民の自由な個人主義の空気は、時代が移っても、今も変わることはない。英国型資本主義のアイデンティティを解く鍵もそうしたところに潜んでいるのかもしれない。

外国研修を振り返って

経済学科3年 上 田 剛 史

私達は約3週間の研修期間をアメリカコロラド州ボルダで過ごし、日本とは全く異なる環境の中で数多くのことを学び、経験しました。元々英語を上手に話すことができたわけではありませんが、いろいろな所へ出かけ、現地の人々と交流を深めることによってアメリカの文化や習慣にたくさん親しむことができました。

ボルダはロッキー山脈の麓にあり、山と緑に囲まれた静かな街です。私達はここでハイキングや乗馬、リバーラフティングなどをし、豊かな自然を満喫しました。また、映画や劇の観賞、野球観戦や小学校の訪問と、アメリカの文化や習慣にじかに触れることができました。更には、現



コロラド大学ボルダキャンパスにて

地の先生や友人と片言の英語で話したり、日本語の授業に参加して日本語を教えるなどしている間に、言葉が通じることの楽しさを肌で実感しました。しかし、この研修で最も印象に残ったことは何と云っても現地で多くの友人ができたことでした。最初はお互いのコミュニケーションがなかなか取れず苦労することが多かったのですが、いろいろ助けてもらい、いつも笑顔で返してくれたので不安もすぐに解消しました。当分の間アメリカに残りたいという心境でした。

3週間という期間はあまりにも短く、研修はあっという間に終わってしまいました。英語は十分上達したとは言えませんが、今回の研修で得たものは非常に多かったと思います。この研修での経験が無駄にならないよう、得たものを今後の生活に活かせればと思っています。



中華人民共和国文化部にて（周而復先生を囲んで）

日中友好のかけ橋

国際商学科3年 徳部 貴文

私たち総勢27名は、青島大学に約1ヶ月間（7月24日～8月20日）短期研修をしました。この留学の計画立案は、旅行会社などに頼むのではなく、山田先生を中心に考えた手作りのものでした。

青島での生活は、午前中は中国語の学習、午後は書道講座、文化講座、青島大学の学生との交流、誕生会、市内観光など盛りだくさんの行事で毎日充実したものでした。

首都北京にも5日間滞在しました。北京では一般的な観光名所巡りだけでなく、山田先生のご尽力もあり、政府機関の1つである文化部で、元文化部副部長（日本では次官）であり、作家でもある周而復先生とお会いすることが出来ました。先生は、毛沢東、周恩来など歴史的人物とも親交があり、その話を聞かせてくださったり、私も代表として21世紀の日中関係のあり方についてお聞きすることができました。そして、周先生には大変熱心に答えて頂き、新しい歴史を作るには、犠牲と非難を受けていく勇氣が必要であると思いました。この日全員が感動の連続でした。

この短期研修を通し、中国語だけでなく、中国の政治、経済、歴史、文化などあらゆる分野にも直に触れることができ、それに関心を持ち、新たな学習のきっかけになったと確信しました。また、未来のために、歴史を開くために、日中の青年が手を取り合って人民に尽くしてゆく、そんな21世紀を作ってゆくべく実践をしていきたいと決意しました。

最後になりましたが、この短期研修においてお世話になりました山田留里子先生をはじめ、関係各位に厚く感謝申し上げます。

短期留学生の盛んなコミュニティ交流

山口銀行のお世話で約一年間本学に留学する科目等履修生は、トルコ、タイ、中国の三カ国から本年は9名在学している。折角の留学チャンスを生かそうと学内外でのコミュニティ交流に意欲的だ。

セラブさんとカーン君はトルコ・イスタンブールの名門ボアジチ大学（昨年からの交換学生ベースの交流を始めた）の学生である。セラブさんは空手部で唯一人の女性部長、7月には部長と一緒に本学から東萩駅までの100キロを歩行した。4月の海峡ウォークにも参加して市民との触れ合

いを楽しんだ。カーン君はサッカー部員として週末には下関市リーグの試合に出ている。ふたりは国際交流会ともだち主催の「世界の厨房から」では、タバククというトルコ料理を作って市民の方たちにも喜んでもらった。10月には山の田小学校でトルコについて話をする事になっている。

ヌンヌさんとゲサニーさんは日本語教育が充実しているタイ商工会議所大学（バンコク）の学生である。ふたりは来日直後に国際ソロブティニスト下関のチャリティお茶会で日本伝統の“粋”に魅了され茶道部に入部した。「世界の厨房から」や7月1日NHK「暮らしのチャンネル」でパッタイというタイ料理を紹介した。下関開港100周年記念行事の国際屋台村でタイの屋台を担当。5月16日は「ひまわりの会」の行事に参加して障害者と一緒にニュージーランド村で意義深い一日を過ごした。

中国からの5名は社会人である。関さんと邢さんは大連市で、楊さん、劉さん、孫さんは青島市でそれぞれ日本関連の仕事を担当している。五人は8月の馬関祭では海峡メッセで中国の餃子を作り商工会議所のブースでは青島ビールの説明をしたりして市民と触れ合った。また、下関開港100周年記念行事の国際屋台村で中国の屋台に加わった。楊さんはロータリーアクトのメンバーとしてボランティア活動に参加している。8月13日の海峡花火大会では交通整備のための仕事やゴミ収集等を行った。

後列左から孫さん、カーンさん、劉さん、楊さん、関さん
前列左から邢さん、セラブさん、ヌンヌさん、ゲサニーさん

短期留学生の帰国後の活躍

中国からの短期留学生の受け入れは1986年に開始し本年で50名になった。帰国後は中国の職場（日本関連の仕事）に復帰するケースが多い。1995年本学留学の劉志勇さんは富山大学修士課程終了後、青島市外事弁公室に戻った。来日機会が多く、本学にも考察団の通訳として訪問した。1993年留学の王文安さんは島根県浜田市国際交流課に派遣されている。

タイ商工会議所大学からの受け入れは1989年以来今年で21名を数える。1995年留学のキティシュート君はバンコクの日系自動車会社に就職した。神戸に出張の際は下関まで足をのびして知人と旧交をあたためていた。

トルコ・ボアジチ大学からは1992年以来今年で12名の受け入れ。1994年留学のセルダン君は現在東京の外資系企業で働いている。1996年留学のシャファック君はイスタンブールの三菱商事、1998年留学のエスラさんはイスタンブールのアク銀行に勤務している。

前期・中期日程で実施

2000年度入試の概要

◇推薦入学

○全国推薦・地域推薦

1999年11月22日(月)小論文

◇特別選抜

○帰国子女特別選抜

1999年11月22日(月)小論文/面接

○社会人特別選抜

1999年11月22日(月)小論文/面接

○中国引揚者等子女特別選抜

2000年1月24日(月)小論文(日本語による)
/面接

○外国人留学生

2000年1月24日(月)小論文(日本語による)
/面接



入試説明会・キャンパス見学会

6月23日(水)、地域推薦対象の入試説明会が行われた。今年はお願資格のある下関地域の高等学校等の他に宇部、北九州の高等学校からも参加があり、23校27名の進路指導担当者が出席した。

説明会では、99年度入試結果、小論文の出題意図と採点基準、2000年度入試の概要について入試委員から説明が行われた。さらに就職委員長から昨年度の就職状況、本年度の現状、企業開拓、就職対策講座、公務員試験対策講座等本学独自の就職指導について説明があり、活発な意見交換が行われた。

また、8月3日(火)夏休みに恒例のキャンパス見学会が行われた。今年市報の他ラジオでのPRもあり、高校生、保護者、学校関係者計154名が参加した。見学会は在学生による学内見学、懇談会に続き平岡教授による模擬講義、米田入試副委員長による入試説明、川本就職委員長の就職説明が行われ、参加者からも有意義な見学会と好評だった。

◇一般選抜

○前期日程

2000年2月25日(金)下関・大阪

教科・科目および配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から2科目(2教科)を選択	小論文	800点
	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1 最も高い得点の科目を300点満点に換算する。 2 2番目に高い得点の科目を200点満点のまま用いる。 300点+200点	300点	
国際商学	・外国語(必須) ・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科から1科目(1教科)を選択	小論文	800点
	【選択の仕方と配点】 1 外国語を300点満点に換算する。 2 外国語以外のすべての科目を200点満点に換算し、最も得点の高い科目を用いる。 300点(外国語)+200点	300点	

○公立大学中期日程(旧C日程)

2000年3月8日(水)下関・大阪・福岡

教科・科目および配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)を選択	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算し、高い順に3科目(3教科)を用いる。 200点×3	200点	
国際商学	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)を選択 ※ただし、この3教科の中に数学か外国語のどちらかを含むこと。	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1 数学か外国語のうち得点の高い方の科目を用いる。 2 上で用いた科目以外の科目のうち得点の高い順に2科目を用いる。 200点×3	200点	

※前期・公立大学中期日程(旧C日程)とも「国語Ⅰ」は選択科目から除く。地理歴史と公民からは1科目のみ。

◇編入学

2000年11月22日(月)小論文/面接

*現2年次学生に欠員が生じたため編入学試験を実施する。

第 16 回市民大学

◎語学・コンピュータ講座 (下関市立大学にて)

- 朝鮮語会話初級 (定員 40 名、B 講義棟 229 番教室)
9 月 22 日～12 月 15 日(12回)毎週水曜日18:30～20:00
李 亮 (下関市立大学常勤嘱託講師)
- 英会話中級 (定員 40 名、B 講義棟 229 番教室)
9 月 30 日～12 月 16 日(12回)毎週木曜日18:30～20:00
マーク・フリン(下関市立大学常勤嘱託講師)
- 中国語会話初級 (定員 40 名、B 講義棟 229 番教室)
9 月 27 日～12 月 20 日(12回)毎週月曜日18:30～20:00
山田留里子 (下関市立大学常勤講師)
- 初心者のためのパソコン入門 (定員 30 名)
10 月 1 日～11 月 19 日(8 回)毎週金曜日18:30～20:00
藪内賢之 (下関市立大学常勤講師)
学術センター地下電算実習室にて

◎基礎講座：下関さまざま

(海峡メッセ下関＝山口県国際総合センター 10 階
国際会議場にて)

- 下関の歴史と文学
10 月 23 日(土)13:30～15:00
清永唯夫 (山口県創作懇話会会長)
- 食文化からみた下関
10 月 23 日(土)15:15～16:45
和仁皓明 (東亜大学大学院総合学術研究科教授
・ 食品物性学)
- 下関の地理的な特徴と位置の移り変わり
10 月 30 日(土)13:30～15:00
吉津直樹 (下関市立大学教授・経済地理学)
- 関門海峡都市圏と下関市の経済
10 月 30 日(土)15:15～16:45
宗近孝徳 (山口経済研究所調査研究部長)

◎市民大学シンポジウム

“下関はどんなまち、こんなまち”

11 月 6 日(土)13:30～17:00
(海峡メッセ下関＝山口県国際総合センター 10 階
国際会議場にて)

1. 基礎講座「下関どんなまち」の報告(13:30～14:20)
坂本紘二 (下関市立大学・産業文化研究所長)
2. パネルディスカッション
「大いに語り合おう、下関、こんなまち」(14:30～17:00)
パネリスト：武部忠夫(劇団「海峡座」主宰)
内山昌子(門司港栄町観光案内所)
高宮善之(唐戸発憤の会・下関青年会議所)
中山淑子(プランナー、ミズネット代表)
安成信次(21 世紀協会理事長)
中尾友昭(下関市議会議員)
ゲストコメンテーター：江島 潔(下関市長)
コーディネーター：坂本紘二(下関市立大学・
産業文化研究所長)

産業文化研究所が共同研究

関門経済圏構想の夢を語る／

産業文化研究所長 坂本 紘二

関門地域共同研究会は、97 年度から開始した第 3 次プロジェクトの 2 年目に当たる調査研究結果の報告書(「関門経済圏の産業構造—98 年度中間報告 海峡都市圏の研究(2)」関門地域研究 vol. 7)を取りまとめ、7 月 30 日、北九州国際会議場にてその報告会を開催した。

報告書は、1)「関門地域における経済圏構想の夢と課題」と題する開談、2)より広い範囲から関門経済圏を捉える試み(関門経済圏形成の可能性の探求)、3)前回は行われた北九州市と下関市の産業面からのアンケート調査による実態分析の継続からなっている。

両地域の取引活動や人々の往来実態を調査を通じて、両地域の連携を深め、新しく磁場を形成することの必要性が認識され、同時に、関門地域が近年の国土体系のなかでややもすると「通過都市」的地域になりつつある危機から未だ脱しきれていない面も指摘している。その解決策の一つとして、市域を越えた情報の提供や開発計画の策定など行政面での積極的な連携を提案している。

98 年度はすでに、全国各地のエコタウン事業などの追跡調査を進めながら、環境産業、行政と市民の環境保全への取り組みなどを中心に、環境問題を通しての関門連携の可能性を探るための調査を行っている。

新任の挨拶

横山 博 司



この度、山口県の一歩東端にある徳山大学から、転任してきました。私の故郷は福岡県飯塚市というところで、下関市は、帰省の際に、いつも通過していましたが、これまで特に関わり

はありませんでした。JR での移動時間を計算すると、前任校と故郷とのちょうど中間点に位置しているようです。車だと時間的には故郷からの方が近くなったようで、喜んでいます。

私の専門は、不安やストレスのメカニズムを実験的な方法で解明していく「実験異常心理学」と社会心理学的な観点から臨床心理学や精神医学の問題を捉えていく「臨床社会心理学」です。現在は 2 つのテーマを中心に研究を行っています。ひとつは、他者の存在が私たちの不安やストレスに対してどのような影響を及ぼすかという「対人不安」に関する研究です。もうひとつは、マスコミなどでも取り上げられている「ワークストレス」です。前任校も経済学部の単科大学で、経済学部にも所属している心理学者として、経済学と自分の専門分野との接点のあるテーマについて研究したいという気持ちから、ワークストレスの研究を始めました。

下関市立大学も同じ経済学部ですので、今後もワークストレス研究には力を入れたいと思っています。また経済心理学などの分野にも少し手を広げてみようと考えています。教職課程と学生相談室担当教員として、微力ながら、力を尽くしたいと思っていますので、宜しくお願いします。

退任挨拶

中 田 行 重

この9月で本学を去ります。本学にきてちょうど5年になります。皆さんには大変お世話になりました。その間、私個人は結婚し、子どももできました。そのたびに生山会からお祝いも頂き、ありがとうございました。そのようにお世話になった割には、市立大に対してほとんど貢献出来ず、大変申し訳ない気がしております。教職科目担当者としては鶴先生にいつも頼り、健康相談室に関しては以前は永原保健婦さん、現在は鎌田養護婦に任せきりでした。また、学内の行政、例えば教授会への参加にしても、出席はしていましたが、真剣な参加の仕方ではなかったと思います。早く終わって欲しいということが私個人の最大の懸案事項でした。では研究者としてはどうかというと、充実していたとは言えないように思います。市立大の教員という一つの立場に腰を据える、という姿勢が全体にわたって欠如していたように思います。これは心理学でいう「アイデンティティの不確立状態」です。アイデンティティのことはよく講義していましたが、自分のことは分からないものだ、とあらためて思います。実は、この挨拶の文章を依頼され、考えていると浮かんでくる連想は私自身のこの、腰の座らない在り方に関するものばかりでした。そして、この在り方は音楽を聞きながらの「ながら勉強」をしていた中学生の頃から私のお馴染みのものであると気づきました。その頃から長いことかかって「アイデンティティの不確立状態」を確立してきたのかと思うと情けなくなりました。私自身が「アイデンティティ不確立」のためか、アイデンティティを模索する学生には共感しやすく、それをテーマにしたカウンセリングでは比較的、的確な対応をしてきたように思います。そう思うと、その程度の貢献は市立大にしたようだ、と思えてきて微かな安堵を覚えます。

このような私に皆さんがあたたかく接して下さったことは、幸せな記憶になるだろうという強い予感があります。心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

第一回下関市立大学学内中国語弁論大会を開催して

中国語担当 山 田 留 里 子

今年の「中国建国50周年」の佳節を祝福するかのよう、学内中国語弁論大会(7月7日開催)は、大成功でした。言葉は心の響き、その心がハーモニーとなり、会場全体に伝わっていきました。「中国語の魅力を存分に語っていきいたい」との思いで、昨年からの準備に取りかかりました。まずは「弁論の部」に参加を希望する学生数名と共に「弁論で何を伝えるのか」について、その思いを文章にさ

せ、何度も推敲を重ね合いました。対話と交流のための一つの方法が語学なので、中国語で弁論をするということは、国際人としての土台を作ることになるのです。中国語で文章が完成してから、録音テープを渡し、昼休みや放課後に時間を見つけては、練習を繰り返しました。何度も挫折そうになる学生を「なんとしても結果を出させたい」との思いから考案したのが、練習の回数毎に到達度を示すことのできる練習表。一歩ずつ進んでいくことの大切さがわかったようです。

さて、今回の大会には、「弁論」の他に「朗読」「暗唱」の部門も設けました。私が担任である1年生のクラスの学生に、「朗読」に参加してみませんかと促しました。最初は数名の希望者だけだったのですが、授業でも練習を進める中、最後にはクラス全員の参加となったのです。学生の伸びる速さを毎回感じ取ることができ、私としては、学生の特性を見抜く力を磨かせてもらいました。

今回の弁論大会は、司会、案内、接待、撮影、案内状配布など全てが学生の手作りでした。「教室」だけが、学習の場ではありません。学生と共に過ごしたたくさんの時間の中で、互いを称え合い、成長していく大切さを学びました。「日中友好に貢献できる人材の育成」と「自己の可能性への挑戦」を目的に開いた弁論大会です。この日の喜びをスタートとして、新たな教育実践に邁進していきたいと思っています。下山学長、来見田局長を始めとし、各教職員の方々には、大会の準備段階から、大変お世話になりました。最後になりましたが、この場をお借りし感謝の意を表したいと思います。

私の教育・研究

水産経済論・地域産業論担当

濱 田 英 嗣

分野によって、教育・研究方法が微妙に異なり、私のやり方がどこまで一般化できるのか不明ですが、参考になればということで筆をとりました。

①「馬の背中を飛び越える」

私は「実力をつける」という用語が好きです。あるテーマで、尊敬している先生と論争気味になり、論議は終始私がリードしましたので、すっかり有頂天になったことがあります。そういう経緯もあり、その先生から私に声がかかり、様々なプロジェクトに参画していますが、その先生の本当のすごさ(実力)が今身にしみえています。要するに、私とその先生を超えたと思ったのは、実は一番飛び越えやすい「馬の背中」に過ぎなかったのです。「自分が思っている点数から30%引いた点数が他人が自分を評価している点数である」ということもよくいわれますが、自分自身を他人と比較する場合、ややもすれば「馬の背」を飛び越えたに過ぎないことが多いということを肝に銘じる必要があります。

②「一次情報の重要性」

私は、真の実力は「一次情報」に接することで磨かれると思っています。一定レベルまでは二次情報で

も通用しますが、それ以上は壁に突き当たり、新たな展開がはかれない状況となります。文献検索であれサーベイであれ、一次情報を自身でとることは手間暇がかかりますし、とんでもない回り道をするといった失敗（リスク）もあります。しかし、苦勞が多い分、物事に対する洞察力がつくと考えます。真の実力とは借り物ではなく、自身が確信を持って（それでも間違いは多々ある）説を唱えることと同義ですが、その前提は正確でかつホットな一次情報をどれほど持っているかにかかってきます。いうまでもなく、皆さんは情報の重要性を十分認識していると思いますが、情報には一次情報と二次情報があることを心に留めておいて下さい。

③「推薦図書」

実力をつけたいと思っている皆さんに、推薦したい本があります。加藤秀俊『取材学—探求の技法』（中公新書、中央公論社、490円）がそれです。平易にどのような作業・手順でテーマを追求していくか、図書館や百科事典の活用法を含めて解説された好著と私は思います。卒論作業との関連で読んでも効果が高いと思います。

第 5 回日中友好軟式野球大会を終えて

下関市立大学体育会軟式野球部 2 年

柴 田 彰 浩

私達西日本地区学生軟式野球連盟選抜チームは、監督以下 3 大学から選抜された選手 11 名で、8 月 21 日から 8 月 27 日まで北京市内の 4 大学と対戦した。

試合の結果から述べると、4 試合全勝で優勝することができ、私も全試合に出場してわずかながらチームに貢献することができた。中国のチームは少しレベルが低く、全試合コールド勝ちだった。エラーが非常に多いという印象で、一緒に練習し、教えてあげたかったが、残念ながら時間が設けられなかった。私達のプレーを学んでくれたならよいのだが。幸いなことに、相手のチームに日本人留学生がおり、その人を介し交流することができた。

また観光では、天安門広場や万里の長城を見学し、中国の広さに改めて感動した。北京市の各地で建国 50 周年ということで工事が大変多く行われていた。しかも 10 月 1 日までに工事が終わらなければ責任者は逮捕されるというから驚きである。北京市は交通マナーが非常に悪かった。車もスピードを出し、自転車や徒歩の人は道を堂々と



対戦相手の清華大学チームと (99.8.24)

横切る。私の滞在中に 5 回も交通事故を目撃した。しかし 1 週間で非常にいい経験ができた。

第 38 回大学祭のテーマは「∞」

今年もまた大学祭の時期がやってきました。10/31(日)～11/3(水)の予定で第 38 回大学祭、通称「馬関祭」が行なわれます。テーマを「∞」、サブタイトルを「～可能性は無限大に～」として、我々実行委員会も色々考えました。全員が一つにまとまり、それぞれ自分の目標をもう一度確認してもらいたいと思います。

—大学祭日程—

- ・10月31日(日) 前夜祭、ふく鍋
- ・11月1日(月) 馬関寄席
- ・11月2日(火) 西川のりお講演会
- ・11月3日(水) ザ・ハイロウズコンサート、市長参加公開ディスカッション、花火大会

その他、書ききれないほどの催しものを準備していますので是非足を運んで下さい。

大学祭でお待ちしております。

第46回関北インカレ春季大会結果報告

北九州・下関地区の 19 大学が参加し、17 競技で熱戦を繰り広げた第 46 回北九州・下関地区大学体育大会(通称「関北インカレ」)春季大会の成績は次のようになりました。

今年度は、本学が当番大学となっており、企画から運営までを担当した体育会及び各サークルは準備や大会運営で大変でした。秋季大会は 10 月下旬より開催されますので「リベンジ」を期待しています。

競技種目	成績	競技種目	成績
1 陸上競技	男 4 位	9 バドミントン	男 1 回戦敗退
	女 3 位		女 準優勝
2 水泳競技	男 /	10 バスケットボール	男 3 位
	女 /		女 /
3 硬式野球	/	11 ラグビー	2 回戦敗退
4 準硬式野球	1 回戦敗退	12 サッカー	準優勝
5 硬式テニス	男 1 回戦敗退	13 空手道	4 位
	女 棄権		
6 ソフトテニス	男 決勝リーグ敗退	14 剣道	男 1 回戦敗退
	女 /		女 /
7 卓球	男 1 回戦敗退	15 柔道	予選リーグ敗退
	女 /		
8 バレーボール	男 4 位	16 弓道	男 4 位
	女 /		女 6 位
		17 漕艇競技	/

準硬式野球部全国大会出場

準硬式野球部が、春季中国リーグ戦で準優勝し、全国大会に出場した。8 月 23 日(月)に、金沢市の石川県立野球場で、強豪神奈川大学と対戦し中盤まで接戦したが、7 対 4 と惜敗し、初戦突破は叶わなかった。

生協に新しい専務

下関市立大学生協同組合専務理事
内 野 隆 二



泉前専務の後任として5月半ばに、下関市立大生協に赴任した内野です。広島大学生協、鳥取大学生協でそれぞれ書籍担当者、ショップ（購買・書籍）店長を経験してきました。生協の強みは組合員の組織だということです。組合員の皆さんの要望を実現すること、そのことに最大限努力していこうと考えています。特に、大学の基本的な機能である教育・研究に貢献していくには、コンピュータや書籍、文具などの更なる充実が必要だと思っています。新しいメディアであるインターネットなども使用して、充実を図っていきます。さらに、「就職」や「外国語コミュニケーション」など最近特に関心の高まっている分野の取り組みも強めていきます。下関市立大に入学してよかった、そこに生協があってもっとよかった、といわれるような生協にしていきたいですね。よろしくお願いします。

時計柱について



大学管理棟前のグラウンド側に時計柱が建っています。

この時計柱は、先輩学生の交通事故死の際に遺族からのご芳志により建てられたものです。

残念なことには、最近も相変わらず学生の痛ましい交通事故死が毎年数件発生しています。交通事故の撲滅を願い、時計柱建設のいきさつについて、中山名誉教授から次のような寄稿をいただきました。

〔時計柱のこと〕 秋の定期試験が終わり、グラウンドにおけるクラブ活動が再開される頃になると、日没もかなり早くなり新設された照明灯が頼りになる。ところが、日頃、照明灯の足下、楠の木陰にある質素な時計柱に足を止める学生諸君はどのくらいいるであろうか。いや、多くの人が掲示板を見に来た折りに、あるいはグラウンドでの練習の合間に利用したことがあるにちがいない。今回は時計柱について知られていない「大事な話」を紹介しよう。

植え込みにかくれている台座には、「寄贈 神田恵氏 学生 神田芳宏 59年3月」とある。昭和59年2月7日夜、当時本学4年生であった神田芳宏君（福山市出身）はアルバイト帰りの車運転事故で亡くなった。卒業を目前にして、借しみて余りある青春の中で散ったのであった。同君は、準硬式野球部主将、体育会会長を務め、学友の信頼も厚く、彼らの胸に抱かれて遺影で卒業式を見守ることになった。

同君の御両親は御子息の在学のお礼にと、本学に金一封

を寄贈されたが、本学としては登下校の学生や、クラブ活動の学生の便宜と、交通事故に対する注意を喚起する意味で、時計柱を建てて、御両親のご芳志を生かすことにした。

それから15年。夏の日練習、秋の大学祭、掲示板の近くに、いつも後輩諸君とともに時計柱はある。そして「わが子を見守る親の思い」が台座には刻まれているのだ。在学生諸君、一度でよいかから、台座の前に立ってみようではないか。

（中山 尊）

部局だより

学生部から交通安全のお願い

今年1月に本学学生運転の自動車死亡事故があり、皆さんに交通安全を呼びかけていましたが、その後も5月（自転車運転中に自動車と追突）、6月（バイクで転倒し自動車に追突）と交通事故が続けて発生しました。

この件については、6月28日に水産大学校で開催された下関管内3警署と市内四年制4大学の「交通問題懇話会」でもとりあげられ、嚴重注意を受けました。

公道はもちろんのこと構内でも交通規則を守り、事故をなくしましょう。

図書館からのお知らせ

○判例体系CD-ROM（第一法規）

（民事法編／民事特別法編／公法編／
社会経済法編／刑事法編）

を購入しました。冊子体に比べて効率的に検索でき、必要な情報を短時間で入手することが可能です。利用される方はカウンターに申し出てください。

○日の丸・君が代関係の資料コーナーを設置していますので、閲覧ください。

教職員異動一覧（平成11年6月1日付）

職 員

（転入・昇任）

新 所 属	氏 名	旧 所 属
事務局参事	岡本 昌久	保健福祉部参事
事務局次長	本間 俊男	事務局主幹
事務局次長補佐	村田 元宏	市街地開発課長補佐
事務局次長補佐	新内 和美	広報広聴課主査
事務局主査	山根 義裕	学生部補導係長
事務局庶務係長	高森 俊明	事務局会計係主任
事務局会計係主任	領地 純子	事務局会計係
事務局会計係	藤永 真一	港湾局総務課
教務部	中澄 千春	道路管理課
事務局庶務係	阿部 恵美	11.4.1新採用

（転 出）

下関観光コンベンション協会	藤田 正志	事務局次長補佐
介護保険準備室	瀧澤 洋子	教務部
児童福祉課	東矢知恵子	事務局庶務係